

# 視点

エビテーゼ製作ラボを開設して3年後の2014年、エビテーゼ技術者育成のための「Medical Lab K Epitese Training School」(以下スクール)を開講し、今年で5年目となりました。スクールを始めようと想像したきっかけは、体の一部を失い悩まれている方々、一人でも多くの患者さんにエビテーゼを届けたいという思いがあったからです。当時、エビテーゼの製作方法を教えている所はほとんどなく「エビテーゼが欲しい」という需要とは反対に技術者の数も多くはありませんでした。とくに地方では技術者はおろかエビテーゼ自体の認知度も低いため欠損で悩まれている方々に情報が行き届くわけがないのです。

そんな状況の中、「技術者がいなくエビテーゼの認知度が低いのなら自分で教え、生徒さんたちに発信してもらえばよいのではないか。自分一人で技術を抱えてしまうのではなくインプットしたことはアウトプットするべきなので」と考えたのです。

各都道府県に2、3人の技術者がいれば欠損で悩んでいる方々がどれだけ救われることでしょう。今まで都市部にエビテーゼを作りに行っていた方々も、新幹線を乗り継い

で泊まりがけで製作に時間を費やしていた方々も、地元で作ることができれば、仕事の合間や子ども

が学校にいる合間などを使い、エビテーゼを容易に手にすることが可能となるのでは



高崎市片岡町

萩原 圭子

歯科技工士

## 「身近さ」の理想へ前進

と意思しました。エビテーゼ利用者と製作技術者の相性もあります。センチタイプな部分だからこそ女性技術者に作ってもらいたい

が、実際作りに行ったら男性技術者しかいなく、コミュニケーションがうまく取れず自分の思いが伝えられないまま完成となってしまうという例もあるようです。

求める方がいる以上、その要望に応えたいと5年間で男女合わせて延べ40人ほどのエビテーゼ製作技術者を育てました。全ての生徒さんが第一線でエビテーゼを製作しているわけではない。クオリティーの高いエビテーゼを製作するために日々練習に励む方、家庭や育児と両立しながら仕事として確立しようとする方などさまざまです。卒業生には北海道や青森、福岡や山口県など遠方の方も多くいます。学ぶという事は大変なことですが、私の理念や思想を実践に移してくれる仲間が全国に増えたことは事実です。

そして何よりもうれしいのがエビテーゼの製作依頼をしてくださる方から「エビテーゼはテレビの中だけで身近に作ってくれる人がいるとは思わなかった。失った体を取り戻すことができてうれしい」と耳にすることが多くなったことです。

理想としていたことを現実化することができた5年間で

### エビテーゼ技術者育成

【略歴】歯科技工士の傍らエビテーゼの技術を学び、2011年に萩原歯研・エビテーゼ製作室メディカルラボKを開設。製作技術者の育成にも取り組む。高崎市出身。

# オピニオン21

ホームページでも見られます。  
アドレスは <http://www.jomo-news.co.jp/>